

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成28年 2月24日
学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
学年	高等部・中学部

【展覧会に出品した生徒の感想】

- ・これから、第2弾を描きます。(高3:男子)
- ・もっと、たくさん絵を描きたいです。(高3:男子)

【作品展を見学した生徒の感想】

- ・いつか、美術館に絵が飾られるようになりたいです。(中2:男子)
- ・アニメーションが面白かったです。(高3:男子)



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成28年 2月24日
学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	羽川 昌久

実施概要	実施活動名	特別支援学校の理解啓発を目的とした芸術活動とその支援 ～地域をつなぐ「六つのものがたり」～
	実施日時	平成28年1月30日～4月7日
	実施場所	北海道立函館美術館
	実施目的	特別支援学校の児童・生徒及び卒業生の芸術活動について、地域の方々への理解を深める。
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道立函館美術館所蔵作品と本校生徒及び卒業生の作品とのコラボレーション ・函館市在住の作家（書家・作陶家）とのコラボレーション ・道立函館美術館での、シンポジウムの開催 ・北海道教育大学函館校（小栗ゼミ他）との企画協力及び連携 ・公立はこだて未来大学との企画協力及び連携
	実施方法	・北海道立函館美術館における、本校生徒及び卒業生の絵画、造形作品の展示
参加人数	生徒：5名、卒業生2名、本校PTA	

報告事項	内容	<p>一昨年、函館蔦谷書店で開催された佐久間智之さんの作品展や、昨年のJR函館駅多目的ホールでの高等部生徒の作品展（全附連から、ご協力をいただきました）では、障がいのある児童・生徒の芸術活動に対する、この地域の方々の関心の高さを実感することができた。</p> <p>また、本年度については北海道立函館美術館を会場に、在校生及び卒業生と地域の作家や大学とのコラボレーションをテーマにした企画展覧会を開催することができた。</p> <p>この展覧会は、函館市に在住する書家や作陶家、公立はこだて未来大学の先生や学生の皆さん、北海道教育大学の小栗ゼミを中心とした学生等々、多くの方の協力と連携により実現できたものとする。</p> <p>例えば、生徒が日常的に書きためていた雑記を、書家の先生が屏風に表現した作品や、陶芸（窯業）の時間に制作した粘土に作陶家が釉薬を掛け、焼成した作品。美術の時間に描いた絵画を、未来大学の先生と学生たちでCGアニメーションにした作品。描いた絵の中に登場する人物等を題材に、実際の写真や絵で物語を綴った作品等々、6つの構成で企画、展示を実施した。</p>
	結果	<p>作品を描いた生徒及び卒業生については、美術館に自分の作品が飾られることはもちろん、作品が他者の手を介することで想像もしていなかったクオリティーになっていることに、素直に喜んでいる様子であった。また、制作に携わった方々も、障害のある児童・生徒や卒業生の作品に対して深い愛情をもってコラボレーションし、その課程を楽しんでいたことを教えていただき、大変に嬉しく思った。</p> <p>また、今回の展覧会では、本校PTAも展覧会のPRのためトートバックを制作し、多くの方に配布していただけたことに、あらためて感謝をしたい。</p> <p>個人的には、展覧会でのシンポジウムを通してネットワークを構築することの重要性を認識することができた。私たちが思っているよりも多くの方々が、障がいのある人の芸術作品やその活動に興味や関心をもって、機会があれば協力を惜しまないと思っているということに気付くことができた。そのような地域の方々を発見し、関係性をつないでいくことで課題と思っていることも克服する力になると考える。</p> <p>最後に、美術館の機能をノーマライゼーションの理念の基に、すべての地域の方々が享受できるよう協力していただいた道立函館美術館の学芸員の皆さんには、あらためて深く感謝をしたい。</p>
	所感	<p>美術館での実施にともない、搬入出作業や展示等でPTAの協力が多数必要であろうと想定したが、実際には、美術館の作品管理やセキュリティの問題から、そのような場面を設定することが難しかった。ただ、展覧会には初日（1月30日）から多数の在校生及び卒業生と、その保護者の方々が来場し、関心の高さが伺えた。</p> <p>また、当日（1月30日）午後からのシンポジウムには、60名を越える方が参加をしてくださった。タイトルの「アートのカ～学校・大学・美術館そして地域をつなぐ～」にあるように、まさに障がいのある人の芸術活動を地域で支えあうことで、函館という街を形成する新たな指針になるのではないかとシンポジストの一人として感じた。</p>



↑ 展覧会のチラシ



↑ 北海道通信 (2月3日の記事より)

↓ 北海道新聞夕刊 (1月28日の記事より)

↓ PR用トートバッグ



【展覧会の様子】

中学部造形の授業から～単元：美術館鑑賞～



添付書類

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成28年 2月24日
学校名	北海道教育大学附属特別支援学校

活動に参加しての感想

【展覧会を鑑賞された保護者の感想】

- ・道立の美術館で、特別支援学校の生徒の作品展が開催されたことは大変に大きな意味があると思います。とてもうれしいです。
- ・参加した生徒や卒業生だけではなく、たくさんの方が携わってできたことが大切なのだと思う。
- ・今回は参加していませんが、いつか参加して欲しいと思いました。
- ・感動しました。

【シンポジウムに参加した保護者の感想】

- ・高齢者や障がい者に対して、手厚く支え合える街作りができれば、それ以外の多くの人達にとっても住みよい街になるのだと思う。
- ・皆さんが、障がいのある人に感心をもっていただいていることが何よりの励みです。